

声を出すことはとつても体に良いこと
おしゃべりカフェで歌を通じた健康教室



講演会では長持唄を歌い、花婿花嫁が登場する演出も



伸びのある歌声を披露する鷺見さん

黒坂地区の皆さんに元気になってもらいたいと、町公民館で開いているおしゃべりカフェで、11月17日、お気楽講演会「歌を通じた健康法」が開かれ、常連客らおよそ30人が、発声法について話を聞いた。大きな声を出して心身ともに元気になりました。

講師は、民謡歌手の鷺見佑壽さん（米子市）。同講演会前日の16日には、出雲街道根雨宿花嫁行列の催しで、列の中で「長持唄」を歌い、盛り上げました。

鷺見さんは、時折伸びのある歌声を交えながら、バス会社に勤務していたこと、民謡歌手を目指して上京した話など、好きな「歌」の魅力を話しました。

そして、歌には「認知症予防」「がん予防」「生活習慣病の予防」の力があると、歌を通じた健康法を説明すると、参加者はうなずきながら聞き入り、また、大きな口を開けて声を出す発声練習も行い、声を出すことが健康法の一つであると学びました。



市町村長が出席し、活発な意見交換が行われた



若者を受け入れるには何が必要かを話す田中さん

問題や課題を共有し、元気な町へ
日野町で『自立を目指す市町村元気サミット』開催

平成の大合併で、「単独存続」を決めた県内9市町村が一同に会し、これからのまちづくりについて共に考える場として、平成16年に発足した『自立を目指す市町村元気サミット』を、11月29日、日野町役場で開きました。

同サミットは、今回で第9回目で、テーマは「人口減少社会における移住定住の取り組みについて」です。特別講演として、NPO法人学生人材バンク代表理事の田中玄洋さんが、「ヨソ若者が田舎に住む仕組みとコツ」と題して、学生人材バンクの活動紹介や、活動から県内に移住した若者の取り組みを紹介しました。

また、各市町村の取り組み状況と今後の方向性を発表し合い、進む人口減少の現状と、空き家の活用や子育て支援、地域活性化などの移住定住策について情報交換。他市町村の状況を参考に、保育料や教育費、婚活事業などのほか、移住者を地域の柱にできないかなど、施策に反映できればと活発な意見交換が行われました。



地域を花で元気にしよう

黒坂コミュニティ推進協議会が花いっぱい運動



たくさんのプランターを準備した会員

11月17日、黒坂コミュニティ推進協議会（中原明会長）が、長年取り組んでいる「花いっぱい運動」の作業を行いました。

会員がプランターに土を入れ、パンジーなどの花や、チューリップの球根を植え、町内の公共施設などに配られました。

今回は、公益財団法人コメリ緑育成財団の緑化活動助成金を活用し行われました。

夢に向かって頑張つて

セルプひのが日野中学校3年生に絵馬を贈る



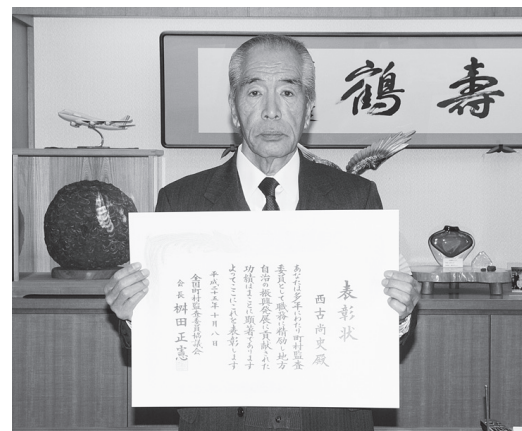
左から松岡さん、矢田貝さん、瀬田さん

高校進学など「夢をかなえてほしい」と、障がい福祉事業所セルプひの（田子功司所長）が、町内の中学3年生に絵馬を贈りました。

12月3日、日野中学校で行われた贈呈式では、利用者代表の松岡恭二さんが、3年生（27人）代表の矢田貝洋平さんと瀬田瑞季さんに手渡しました。絵馬は同事業所職員と利用者の手作りで、来年の干支の馬が描かれ、大きく「大願成就」「飛躍」と書かれています。

おめでとうございます

西古尚史さんが全国町村監査委員表彰を受章



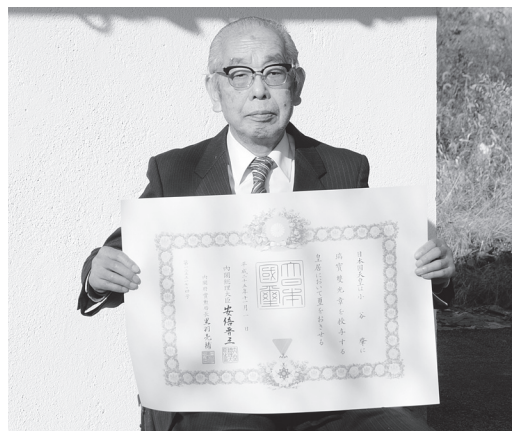
受章を喜ぶ西古さん

10月8日、町監査委員の西古尚史さん（黒坂）が、全国町村監査委員協会表彰を受章されました。

これは、町村等監査委員として7年以上在職し、功労のあった者に贈られるもので、西古さんは平成17年12月から8年にわたり、町監査委員として、事業を適正に行っているか、経費を効率的に使用しているかなど、行政の財務・事業を町民の視点で公正に指導されています。

おめでとうございます

小谷肇さんが瑞宝双光章（高齢者叙勲）を受章



受章を喜ぶ小谷さん

小谷肇さん（津地）が、瑞宝双光章（高齢者叙勲）を受賞し、12月5日、山本武史教育長が小谷さん宅を訪れ、受章を伝えました。

小谷さんは昭和20年から42年間、日野郡を中心に教員生活を送られ、昭和56年からは菅福小学校校長として退職まで勤務。学校・地域・保護者が力を合わせて子どもたちを育てようと尽力されたほか、町の同和教育推進員として、人権・同和教育を推進されました。